

## 新宮山彦ぐるーぷ第2096回

### 千手岳に靡看板設置

◇実施日…2020年9月21日(月・祝)晴

◇参加者…沖崎吉信、濱野兼吉、湯川一郎、大江加予子、畑林清子、

生熊千万子、山川治雄・自知、梶野照雄、志岐敬

10名

9月19～22日の間は敬老の日、秋分の日が続き4連休となる。春のゴールデンウィークに対して、シルバーウィークと言うらしい。



小仲坊を出発

二ツ岩で休憩

三井寺の標識で谷を渡る

4連休の前、18～19日に行仙宿小屋の雨戸工事を予定していたので他の行事は組み入れていなかったが、工事予定日が雨予報に

なり、3日前に延期を決めた。その前に会員数名から「連休にどこか行く予定はないのか、天気も良さそうなのでどこかに行ったらどうか」との声があつたので、靡看板の設置も兼ねて千手岳に登ることを決め、10名の皆さんが参加された。



案内道標を設置

千手岳手前の岩峰

千手岳鞍部に到着

当日7時少し前に家を出た。途中の小舟オートキャンプ場には100張り近い様々な色のテントが張られている。4連休でもあり、コロナウイルスで外出を自粛していた人が感染拡大の収まりもあって一気に繰り出したようで、過去最高の人出のように思えた。筏下りやラフティングで北山村の道路も車両の通行が多い。前鬼林道のゲート手前にも10台以上の駐車車両があった。

8時半過ぎに小仲坊に到着、登山準備や五鬼助さん挨拶をし、簡単に本日の行程や注意事項を説明、9時少し前千手岳に向けて出発した。山川さんからたくさんのミカンを差し入れていただいた。歩き出して5～6分、大江さんから「体重が後ろにかかり歩きづら

いので小仲坊で待っている」との申し出があり引き返された。途中、2回の短い休憩を挟み10時15分、二ツ岩に到着。ここで7〜8分の休憩を取り再び登りだす。

15分程進んで三井寺のプラスチック案内板のあるところから大日谷を渡る。谷を渡った地点に梶野製道標を設置する。ここからは道があつてないようなもので、ピンクテープが打たれているが踏み跡は複数あり、山川さんも「来るたびにルートが違う」言っていた。

結局、どの踏み跡をたどつても尾根の同じような場所に登りつくことが判った。後ろを振り向くと、一人見かけない若者が着いてきている。千手岳に向かっているのかと思つたが、話をするに「釈迦ヶ岳に行くつもりだが、大勢の人が歩いているのでついてきた」と言う。何とも答えようがない。この若者は千手岳までついてきて一人で引き返した。



摩看板の設置作業



千手観音像と摩看板



本日の参加者

大日谷から尾根までは歩く人が少ないため、踏み跡はあるが下の土

は柔らかく不安定な部分が多い。尾根に出てからは比較的歩きやすいが、千手岳手前の小さな岩峰を越える部分には要注意だ。

二ツ岩を出てから約1時間、11時30分千手岳の鞍部に着いた。千手岳岩峰下の千手観音像は昭和2年(1927)7月、釈迦ヶ岳山頂の釈迦如来像と同様に【大阪佛立會】によって安置され90年以上経た今も当時そのまま、汚れも無く落ち着いた青銅で金色の宝冠と胸飾りが鮮やかだ。

しかし30数年前、何者かによつてこの像が人為的に斜面下に落とされた悲しい歴史がある。平成2年4月、近畿山岳愛好会のメンバー4人が何度もの搜索の末、斜面の下方に像を発見。4人は重さ50kgの像を吊下げ、70mの急峻なルンゼを引き上げて元あつた場所に担ぎ上げた記録がある。

像の後ろ、背中に落下時の損傷であろうへこみが残っている。幸いなことに前面に大きな損傷は見られない。

一時間と少し滞在し、摩看板の設置作業を行う。岩ばかりで杭が打ち込めるかわからず、鉄筋などを用意したが杭を立てた場所がちょうど土ばかりのところ、深く打ち込めたのでしっかりと固定することが出来た。

千手岳の岩峰に以前は無かつたステンレス製のクサリが取り付けられていた。中間部だけのようだが7〜8m位有りそうだ。まず山川自知君が登っていく。山川治雄さんは心配そうに「ゆっくり、気を付けて」と、下から声をかけて見守る。続いて湯川君が取り付く。湯川君は初めから登るつもりだったらしく、ヘルメット、ハーネス、ザイル、カラビナなどを持参していた。下から見ているが、二人とも無事に登りついたようだ。



ちょうど12時になったので昼食とした。程なく自治君が降りてきたが、昼食が終わっても湯川君が降りてこない。20分ほどたつてようやく降りてきた。「360度の大展望で素晴らしい写真を撮り眺望を楽しんで時間を忘れた。釈迦ヶ岳、孔雀岳、五百羅漢の眺めは見事だった。」と感激の上興奮していた。



(記；沖崎、写真；梶野、志岐)

### 行動タイム

08：45 小仲坊 08：58→10：17 ニツ岩→10：51 三井寺標識→11：22  
大日岳東尾根→11：32 千手岳 12：40→13：34 ニツ岩→14：48 関伽  
坂峠→15：20 小仲坊

関伽坂尾根を下る

関伽坂峠で休憩

小仲坊に帰着

12時半過ぎに千手岳を後にする。ニツ岩まで降りて、来た道に戻らず関伽坂尾根を下る。暫くこのコースを歩いていないので気になっていたが、以前と変わらない状態だったので一安心。まだかまだかと思いつきながら歩き続けて関伽坂峠で休憩し、3時を少し過ぎて小仲坊に到着、待っていた大江さんと合流した。

梶野、志岐の2名は小仲坊水源の修理に向かうというので、ここで解散、帰路に就いた。

久々の千手岳と関伽坂尾根を歩き、充実した一日だった。